

令和8年度 附属島田中学校家庭科 実践報告(1 学期)

2年生衣生活「私服 DAY」～実践と体験を通した主体的・対話的で深い学び～

1 はじめに

「衣服の選択」について衣服の役割やTPOを理解し、日常で実践する力を育むことを目的として「私服DAY」という実践を行った。

2 題材計画

本校は制服登校であり、学校生活において私服を着用する機会は宿泊行事のみである。そのため、学校の仲間の前で私服を着用することは特別感があり、衣服の社会生活上のはたらきを意識する良い機会となると考えた。

以下の題材計画を立て、実践を行った。

題材名「Let's私服Day」	
1	衣服の役割
2	私服Dayを計画しよう
3	私服Day

3 実践の様子

(1)TPOの設定

第1時で衣服の役割について学んだ生徒は、私服Dayの計画について話し合うと TPO を考えた「学校にふさわしい服装」が議論の中心となった。

「授業が受けられたら何でもいいのか？」

「キャラものは禁止にした方がいい」

「動きやすい、汚れてもいい服装にすべき」

など、実際に着用することが学習への意欲につながり、衣服の役割に着目し、主体的に議論する姿が見られた。生徒の結論として、「細かな制限はせず、授業に集中できる学校にふさわしい服装」というTPOの設定をすることとなった。

(2)私服選択の様子

第3時では、私服を持参して登校後から下校時まで着用した。生徒がそれぞれTPOを考え、衣服を選択していた。以下、選択の理由を紹介する。

生徒A

前のファスナーを閉めればしっかりとした服装になるし、暑ければまくるか上に着ているものを脱げばいい(下は半袖)、活動も閉めれば服が邪魔にならないからいい服装だと思う。個性の面は、自分の着たい服装を着ているし、前回の授業で考えた服の色を着たから、個性の面でもいい服装だと思う。

生徒B

日常生活でも動きやすいようにズボンにした。上は暑いので半袖にして、エアコンなどで涼しいかもしれないから、薄めの上着を用意した。T シャツとパンツだけだと少し色がないと思ったから、寒くなくても邪魔にならない程度の上着を用意した。個性の表現にもつながっていると思う。学校という場にあっているかといわれたら少し明るい色すぎたかなと思う。

生徒 A は、気温も想定しつつ、学校らしい服装と個性の出せる服装のバランスを考えた着用をしていた。生徒 B は、実際に朝から着用することで、TPO を考えた服装であったが「少し明るすぎた」という気付きがあった。

(3)私服 DAY の話し合い

着用してきた互いの服を ①場に応じた服装②機能性③個性の表現、という3つの観点で評価し合った。以下のレポート(スライド)を作成し、評価前後の感想を記入させた。

私服DAYレポート

視点：衣服の役割、TPO



項目	自己評価	他者評価
場に応じた服装	★★★★	★★★★
機能性(気候、活動)	★★★★★	★★★★★
個性の表現	★★	★★★★

○私服選択の理由(自己評価)

機能性を重視して服を選んだ。具体的には、今日は暑かったため、半袖半ズボン。実際に着てみるととても涼しく快適だった。しかし、個性の表現としてはふたつ。なぜなら、シンプルだったから。改善点としては、薄めの上着を着る。服の色を変えてみる。服の模様を変えてみるなどがある。

○私服の再評価・活用からの気づき

機能性は、他の人から見てとても良かったと思う。季節や状況に合わせて変えることができる。場に応じた服装は、自己評価よりも高かった。個性の表現も「無くていい感じ」であるから、新しい服を履くと「無くていい感じ」であるから、新しい服の表現も自己評価よりも高かった。機能性は、「いつもとイメージが同じ」らしい。つまり、服装は上着や下着の色を合わせるだけでなく、その色そのものの印象にとっても関係があることがわかった。

評価をし合うことで、

「学校らしいと思ったけど、仲間は少し派手だと感じていた。」

「服装に自信がなかったけど、いい評価がもらえた」

など、衣服の社会生活上のはたらきは「他者の目線」によって、見え方が変わることによって多くの生徒が気付けた。



4 まとめ

TPO に応じた衣服の選択を実践できる力を主体的に育むため、実際に私服を着用する「私服 DAY」の実践を行った。思考だけでなく、実践することで「社会生活上のはたらき」への理解が深まり、生徒が日常の衣服の選択について価値観を捉えなおす、貴重な機会となった。

また追究の話題として「制服は必要か」という議論も起こった。今回の学びが、生徒会活動や日常生活の中で、よりよい学校生活を主体的に考えるきっかけになることを期待したい。